



札幌市立あやめ野中学校
学校だより「薫風」第9号
地域配付・HP版
令和2年3月25日発行

■第31回卒業証書授与式

第31回卒業証書授与式は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、来賓の皆様、保護者の皆様、在校生のみなさんの参加をご遠慮いただき、時間短縮、規模縮小という変更を図り、挙行了しました。代々の先輩が受け継いできた伝統的な式を行うことは叶いませんでしたが、今年の卒業生も一人一人がこの状況を受け止めながら、しっかりと式に参加し、立派に卒業しました。在校生が先輩の思いを受け継ぎ、新年度から先輩として活躍していく姿に期待しています。



卒業生から在校生へ、お別れの言葉

卒業生代表生徒

頬を撫でる風も日に日に和らぎ、麗かな日が差しこむ季節となりました。

まだ見ぬ世界への期待と不安で胸をいっぱいにして迎えた入学式。あの日から早くも3年が経ちました。光陰矢の如し、というように、今までの3年間はあっという間のものでした。しかし、私たちはこの3年間で、様々なことを共に経験し、忘れられない思い出をたくさん作ってきました。そして今日、私たち59名は、このあやめ野中学校から旅立ちます。

1年生。初々しい私たちを迎えてくれたのは、先輩方の情熱がこもった「あやめ野のあいさつ」そして「歌声」。私たちはそれらの素晴らしさに圧倒されました。同時

に、これが私たちが目指すべき姿なのだと実感し、先輩方が示してくださった、あやめ野の伝統を受け継げるよう、日々努力していくようになりました。

体験学習。中学校に入ってから初めての校外学習でした。この頃には、仲間と過ごすことにも慣れ、協力して炊事を行うことができました。一生懸命に作業をして、やっと作り上げた一品は、皆の思いがこもった、あたたかく、やさしい味がしました。仲間の心のあたたかさに触れられ、距離もぐっと近付いた大切な思い出です。

2年生。後輩ができ、クラス替えもあったことで、人間関係の幅が大きく広がりました。2年生では、宿泊学習がありました。中でも、清流と名高い尻別川でのラフティングは忘れられません。水を全身にかぶりながら、必死に急流を下った先には、壮大な羊蹄山がたたずんでおり、自然の雄大さを大いに実感しました。美しい流れや山々、共に力を合わせた仲間の笑顔。その一つ一つが深く胸に刻まれました。

また、部活動や生徒会活動では、自分たちが後輩をリードしなければ、という思いが強くなり、「先輩」としても少しずつ成長していきました。

3年生。何をすることも「集大成」の一年。行事はもちろん、日々の生活も一日一日を噛み締めるように過ごしました。

多くを学び、団結力も強まった修学旅行。仲間と過ごした2泊3日は一生の思い出に残る、最高の日々でした。あやめ野中学校初の飛行機での旅行。札幌を飛び立ち、歴史と文化の地、秋田へ。男鹿でのなまはげ体験、角館での自主研修、康楽館での芝居鑑賞など、札幌ではできない、とても印象深い体験ができました。仲間とは長い時間を共にして、時には笑い合い、時には助け合い、より絆を深めていきました。帰りの電車内でも、仲間と語り合ったりして、疲れも忘れて楽しい時間を過ごしました。この時間がずっと続いてほしい、と思うほど、私たちの修学旅行は、一人一人の胸に残るものでした。

あやめ野祭。全員が最高の学校祭にするために尽力しました。各部門の発表に、今までで一番力を入れただけでなく、幕間発表にも多くの人々が参加し、会場を盛り上げました。あの日、体育館にあふれた歓声や笑顔を忘れることはないでしょう。

合唱コンクール。一人一人が情熱をもって練習に取り組みました。議論に議論を重ね、発声の仕方、強弱、表情など、細部まで技巧を凝らしました。日に日に歌が上達すると共に、私たちの心も今まで以上に一つになりました。仲間と一緒に歌える時間が残り少なくなっていくことを意識しながら、全力で歌った、前日の練習。歌に込めた思い、仲間への思いが涙となってあふれてきて、上手に歌えなかったけれど、私たちの固い絆を象徴した最高の合唱がそこにありました。そして本番では、私達の「思い」を存分に響かせることができました。3年間を経て深まった絆は、私たちの宝物です。

■令和2年度あやめ野中学校の新しい取組

保護者ならびに地域の皆様のご理解とご協力のもと、令和元年度も終わりを迎えようとしています。令和2年度のあやめ野中学校の教育活動が、生徒たちのより豊かな成長につながるよう、取組の改善を考えております。既にお伝えしている内容も含め、特に大きな変化である2点につきましてお伝えします。令和元年度では、校訓「夢 人 力へ」と定め、平成から新しい令和の時代に突入するにあたって、たくましく生きていける人材の育成のためのヒントにしたいという願いもありました。来る令和2年度は、時代や社会の変化、そしてあやめ野中学校を取り巻く地域や子供たちの実情に寄り添った教育活動を目指しさらに改善をして参ります。それぞれにねらいや期待される効果を以下のように考えています。

(1) 2年生から3年生への進級時も学級編成を行います。

昨今の社会情勢にあって、「中1ギャップ」、「高1クライシス」という言葉が耳にするように、新しい集団、環境に適応することに難しさを感じる子どもたちもいて、異校種間の接続をどうするかが課題になっています。また、入学・進級後の新しい環境に馴染むまで時間がかかる生徒もいます。ほとんどの子どもたちが高校に進学する現状にあり、進学しない子どもたちも中学校卒業後の環境は大きく変わります。

中学校卒業後の社会や組織では、自分の周りには自分の知らない人の方が圧倒的に多いという現実があります。しかし特に本校は小規模校であり、本校の通学区域の小学校は2校で、人間関係が限定的になりやすい地域の特性があります

一方で、クラス替えを取り入れた中学校の事例からは、「クラス替えはよい機会になる」、「豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい」などの事例報告もあり、全国的、かつ札幌市内的にも毎年クラス替えを行う

学校が増えています。

本校では、生徒たちが安心して通える学校づくりを推進するため、そして卒業後社会に出てからも多様な環境の変化に適応できる人間性を育てるために、1年間あらゆる角度から学級編成の在り方について情報収集し、検討を重ねてきました。その結果、2年生から3年生への進級時にも学級編成を行い、豊かな人間性や変化への対応力、多面的・多角的なものの見方や考え方を育てていこうという結論に至りました。

(2) 行事を精選します。「あやめ野祭」と「合唱コンクール」を統合

これまで本校では、限られた人員の中で、各種行事を含む教育課程を運営・推進して参りました。しかし昨今は、生徒数の減少と学級数の減少、それに伴う教員数の減少などにより、従来継続してきた行事の運営において、一人一人の負担が大きくなってきています。

また季節や時期によっては、学習活動やテストと諸行事の活動、部活動等が重なったり並行することで、生徒の中には、その負担やストレスの大きさから、学校生活にうまく適応できなくなったり、疲れの蓄積が悩みにつながる場合もあります。

そこで、令和2年度の教育課程においては、行事を精選し、生徒の学校生活のゆとりをもたせ、一つ一つの活動によりじっくり取り組めるようにしたいと考えております。大きな変更点としましては、従来9月下旬に行っている「あやめ野祭」の内容を部分的に、10月下旬に行われている「合唱コンクール」に統合する形で実施すること等を考えております。詳細につきましては、4月に開催している「学校教育説明会」または、「学年PTA集会」等でご案内いたします。PTAの皆様にもご理解とご協力をお願いすることが多々生じてくると思いますが、今後ともどうかよろしく願いいたします。

